2027年3月期 第2四半期
決算説明会資料

スタンダード市場　証券コード6482

2026年11月13日

YUSHIN株式会社

© 2026 Yushin Company

発表のポイント

2027年3月期上期業績

- 売上高　：アジアでのエレクトロニクスを中心としたロボットの売上増加と、メディカル関連案件を含む特注機の売上増加により増収
- 営業利益：売上高の増加および売上総利益率の改善により増益

2027年3月期予想（予想修正）

- 売上高　：メディカル関連案件の出荷・検収が進むことに加え、人手不足を背景とした特注機需要が継続。エレクトロニクスを中心としたロボットの売上増加も見込み増収予想
- 営業利益：売上高の増加により増益予想

株主還元・トピックス

- 2027年3月期の中間配当は10円とし、年間配当予想は20円に決定（前年同額）
- 資本効率の向上および株主還元の充実のための施策として、10億円を上限に自己株式取得の実施を決定
- IPF Japan 2026 <国際プラスチックフェア> @幕張メッセ（2026年12月1日～5日）

© 2026 Yushin Company

2027年3月期上期実績と通期予想

	2026/3		2027/3			
	上期	通期	上期		通期（予想）	
	金額	金額	金額	伸び率*	金額	伸び率*
売上高	百万円 10,629	百万円 23,101	百万円 11,681	% 9.9	百万円 26,000	% 12.5
売上総利益 （売上総利益率）	4,148 39.0%	9,051 39.2%	4,958 42.5%	19.5	10,700 41.2%	18.2
営業利益 （営業利益率）	147 1.4%	826 3.6%	961 8.2%	552.7	2,200 8.5%	166.1
経常利益 （経常利益率）	163 1.5%	908 3.9%	999 8.6%	512.3	2,200 8.5%	142.2
親会社株主に帰属する中間純利益 （純利益率）	115 1.1%	286 1.2%	722 6.2%	525.9	1,500 5.8%	423.1

*「伸び率」は対前年同期比

＜為替レート＞ 米ドル/円	146.04円	150.77円	159.37円	155.00円

© 2026 Yushin Company

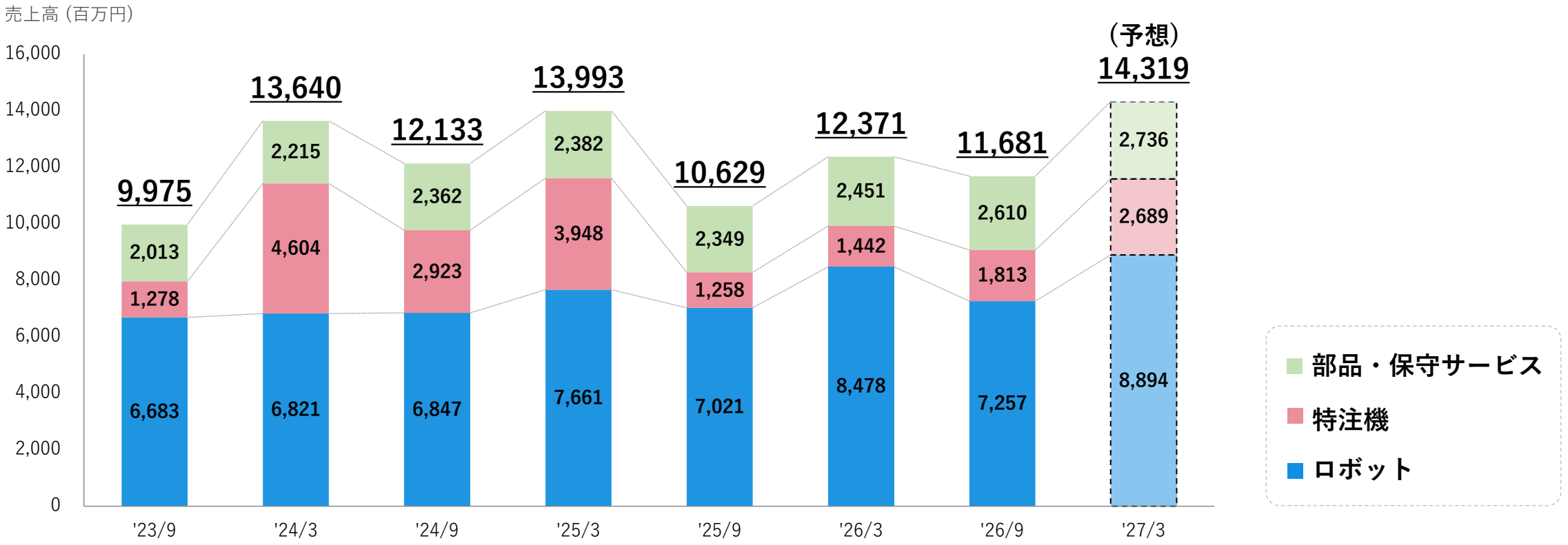
上期実績の要因、通期予想の前提

	2027/3上期（実績）	2027/3通期（予想）
売上高	**前期比9.9%増の11,681百万円**	**前期比12.5%増の26,000百万円**
	ロボットは前期比 3.4%増 ＋ 中国を中心にアジアでの売上が堅調 － 欧州における景気低迷の長期化	ロボットは前期比 8.1%増 ＋ エレクトロニクスにおける需要が堅調 － 欧米を中心に設備投資動向が不透明
	特注機は前期比 44.0%増 ＋ ・人手不足による自動化需要 ・メディカル関連案件の売上が前期比増	特注機は前期比 42.4%増 ＋ ・メディカル関連案件の出荷・検収が進む ・日米欧における人手不足による自動化需要が堅調
営業利益	**前期比552.7%増の961百万円**	**前期比166.1%増の2,200百万円**
	＋ 売上高の増加 － ・エネルギー・原材料価格の高騰 ・積極的な人財投資に伴う人件費の増加	＋ 売上高の増加 － ・エネルギー・原材料価格の高騰 ・積極的な人財投資に伴う人件費の増加

© 2026 Yushin Company

品目別売上高（半期毎）

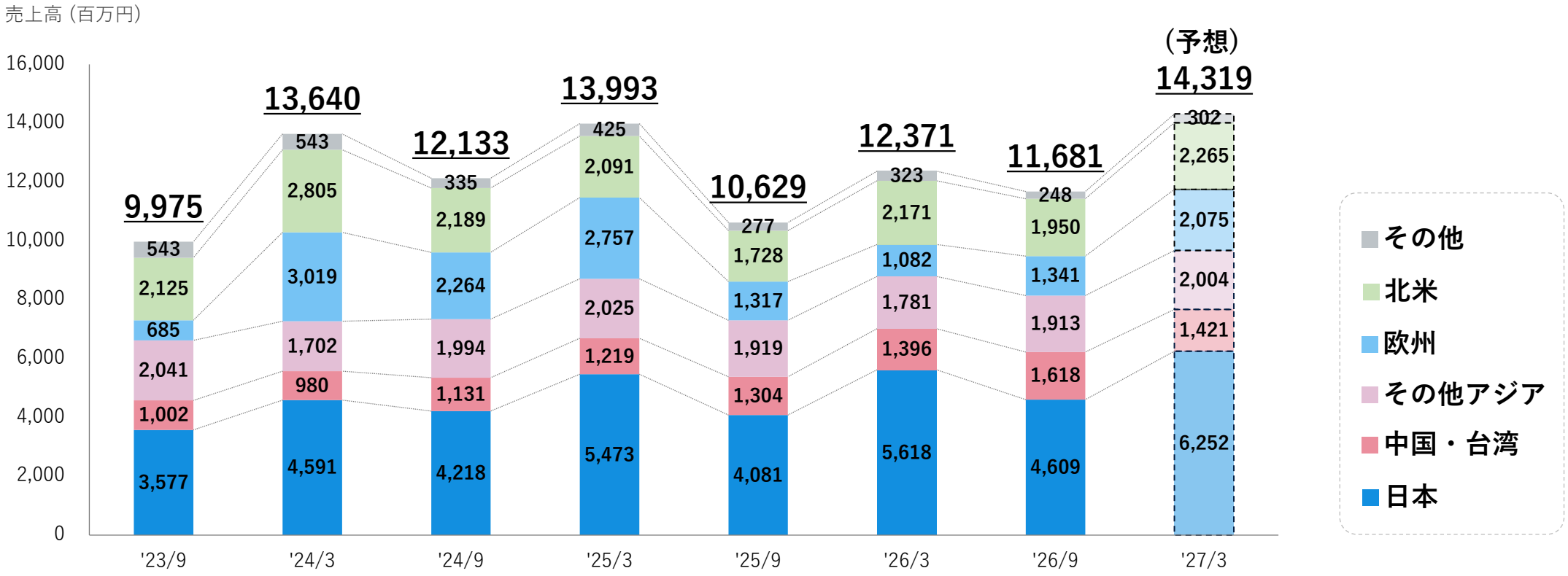
- ‘27年3月期上期は、メディカル関連を含む特注機が堅調に推移
- ‘27年3月期下期は、メディカル関連特注機案件の出荷・検収が進むことに加え、ロボットの売上増加を見込む



© 2026 Yushin Company

地域別売上高（半期毎）

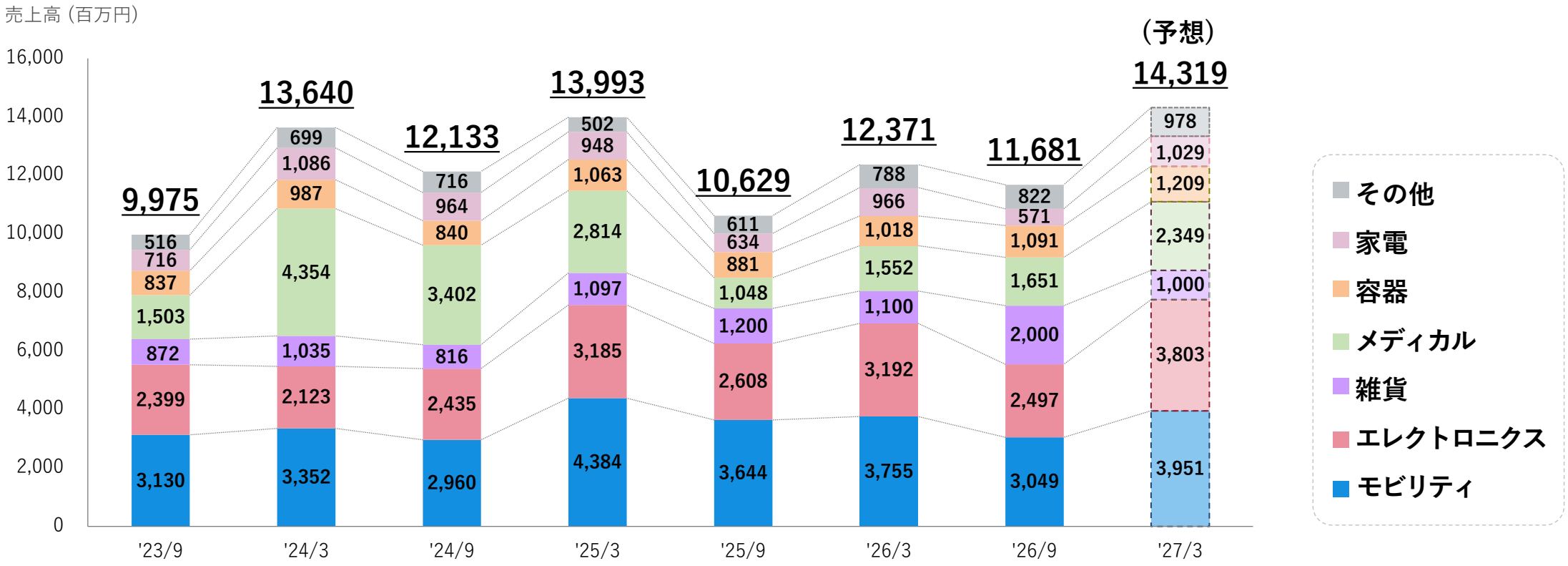
- ‘27年3月期上期は、中国を中心にアジアでのロボットの売上が比較的堅調。欧米における特注機需要も堅調
- ‘27年3月期下期は、日米欧での特注機の堅調な売上に加え、日本・アジアにおけるロボットの売上増加を見込む



© 2026 Yushin Company

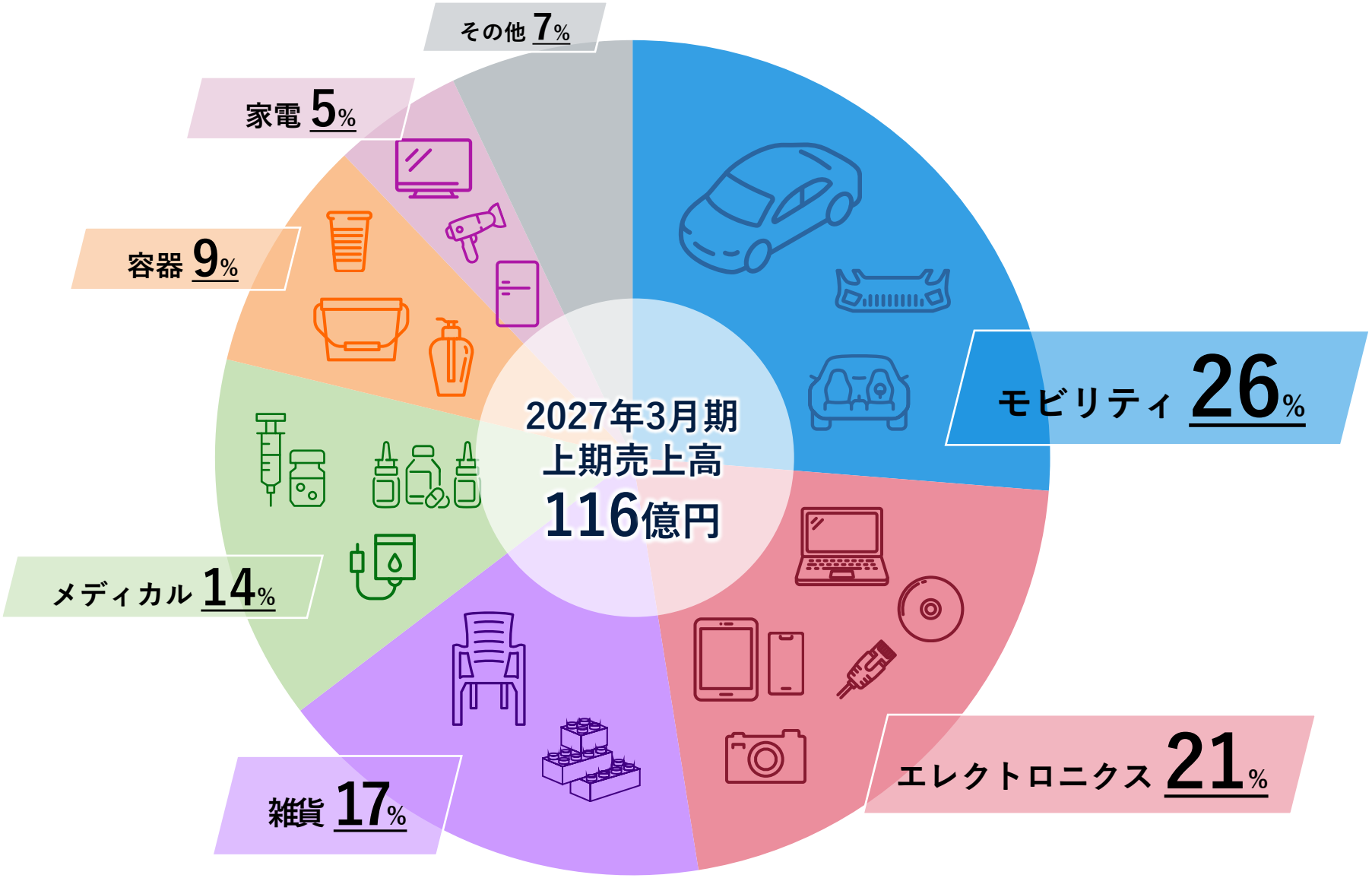
業種別売上高（半期毎）

- ‘27年3月期上期は、メディカル関連案件の売上復調に加え、雑貨の需要が伸長
- ‘27年3月期下期は、メディカル・エレクトロニクスを中心に、他業種も堅調な売上を見込む



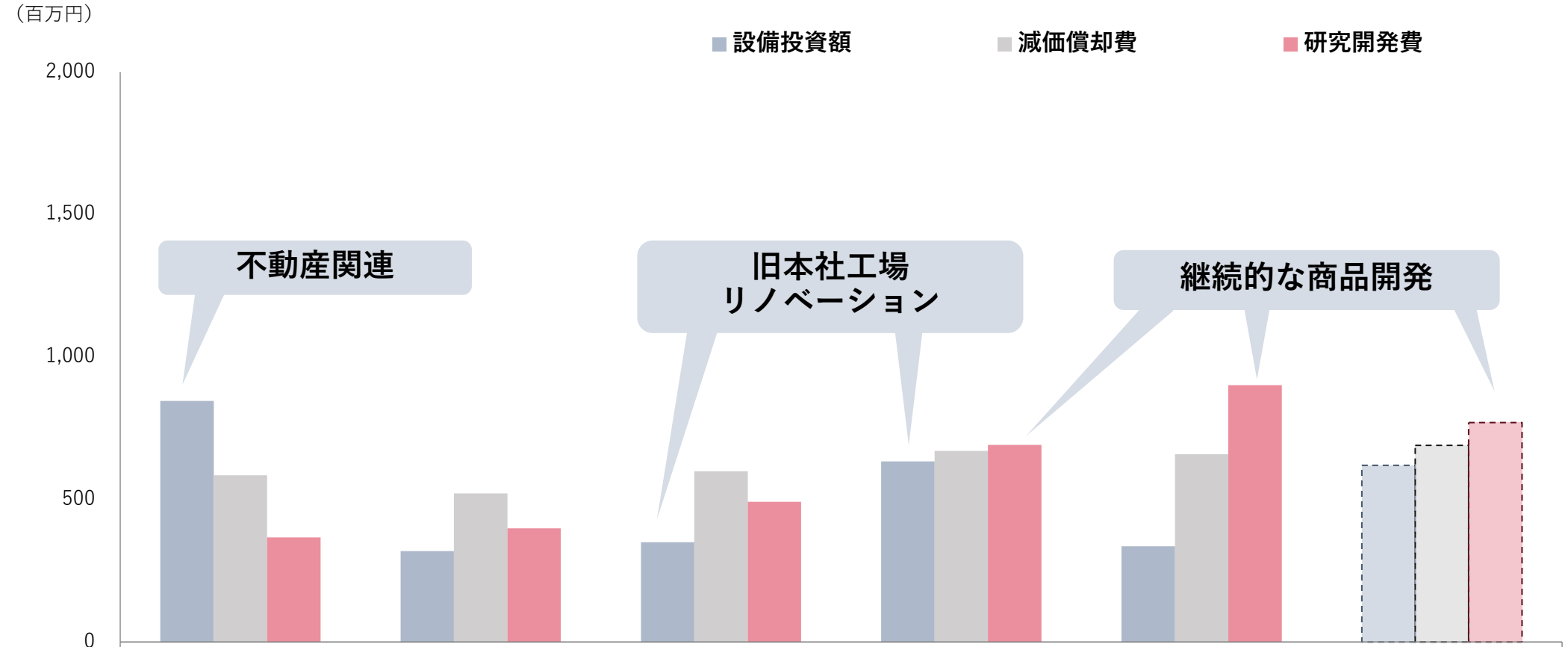
© 2026 Yushin Company

業種別売上高構成



© 2026 Yushin Company

設備投資額・減価償却費・研究開発費



	'22/3	'23/3	'24/3	'25/3	'26/3	'27/3(予)
設備投資額	846	319	350	634	336	620
減価償却費	585	521	599	671	659	690
研究開発費	367	399	492	692	901	770

© 2026 Yushin Company

経営方針・事業戦略・経営目標

経営理念

我社は人間尊重を基本として、
公正かつ健全な「力と知恵と勇気」をもって行動し、
信頼される会社として歩み続けます。
世界に向けて常に革新ある技術を創造し、広く社会に貢献します。
我々仲間は一致協力して社業の発展に尽くし、
心豊かな生活を得ることを目指します。

目指す姿

お客様に喜ばれる商品とサービスを提供し、信頼される会社

事業活動を通して、社会に貢献する会社

やりがいを持って安心して働ける会社

基本方針

お客様を取り巻く社会課題・環境変化の解決

サステナビリティ経営の重要課題（マテリアリティ）として**「労働安全性の強化」、「お客様工場の生産性向上」、「気候変動への対応」**を設定し社会課題解決や環境変化の解決に向けた取組みを進めてまいります。

ステークホルダーの経済価値創出

自動化機器の提供を通じた顧客企業の利益創出、サプライヤーとの双方向のコミュニケーションによる共存共栄、株主価値向上等によりステークホルダーの経済価値の向上に取り組んでまいります。

経営基盤の強化

サステナビリティ経営の重要課題（マテリアリティ）として**「人的資本の強化」、「コーポレート・ガバナンスの強化」**を設定し中長期的な成長に向けた基盤づくりを強力に進めてまいります。

事業戦略

① 未来を切り拓く人財への投資

② グローバル販売力の強化

③ 商品力の強化

④ 新規事業の開拓

経営目標

中期経営目標

連結売上高　300億円

※足元の事業環境を踏まえ、時期について見直しを行う
（2026年3月期：231億円）

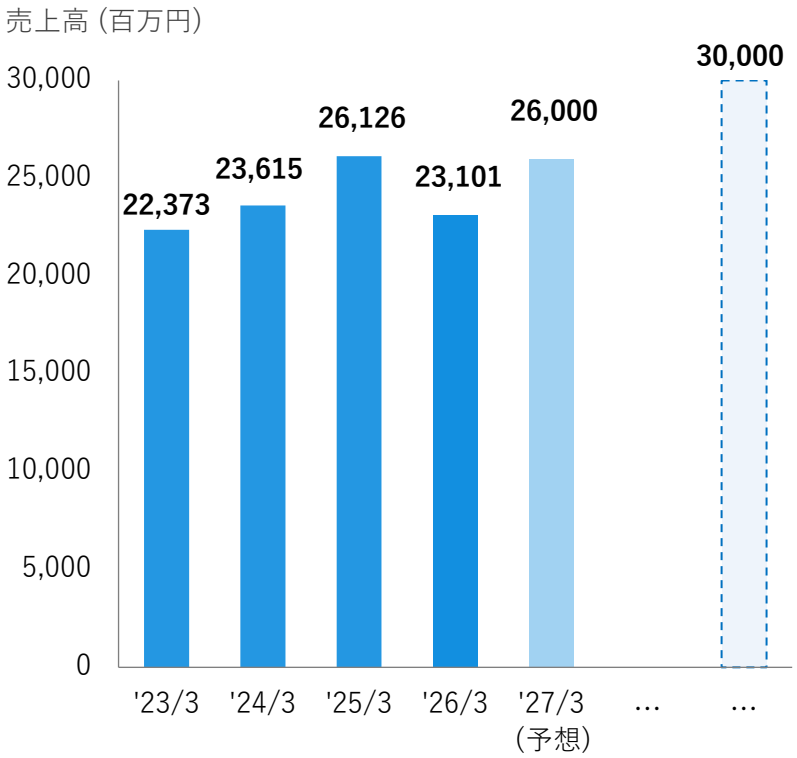
長期的に目指す経営指標

- **営業利益率　15%以上**
  （2026年3月期：3.6%）
- **ROE　8 %以上**
  （2026年3月期：0.8%）

© 2026 Yushin Company

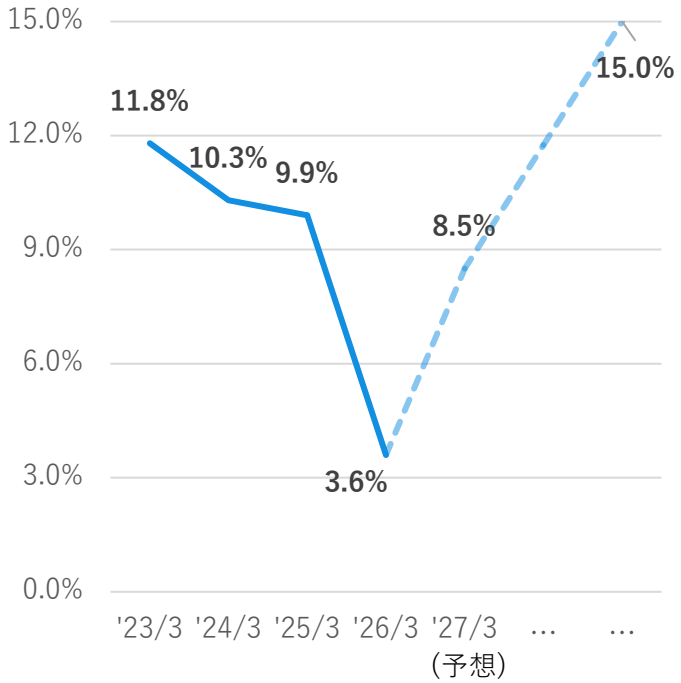
経営目標の進捗状況

連結売上高



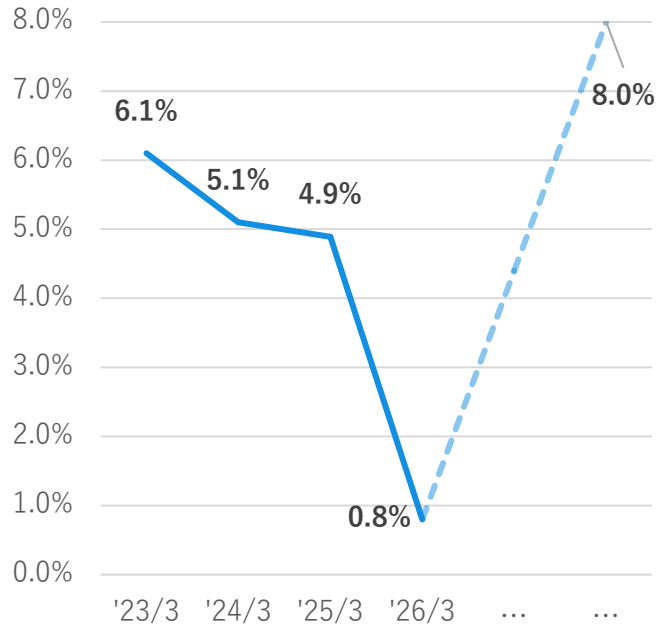
- ✓ 中期経営目標（連結売上高300億円）は、**足元の事業環境を踏まえ目標達成時期の見直しを行う**
- ✓ 各地域における**市場シェア拡大**の取組み推進、特注機の販売増により、目標の早期達成を目指す

営業利益率



- ✓ 直近は**中長期的な成長を見据えた先行投資**と**原材料価格の高騰**などの影響を受け、利益率が低下
- ✓ 先行投資を**早期に利益率向上の成果につなげる**

ROE



- ✓ 長期にわたって使用される設備機械をお客様に安心してお使いいただくため、強固な財務基盤を維持
- ✓ **中長期的な成長を見据えた先行投資**の効果により向上を図る
- ✓ **自己株式取得**の実施を決定

© 2026 Yushin Company

戦略①　未来を切り拓く人財への投資

YUSHIN

企業理念の浸透を軸に、人的資本強化の取組みを推進

- 「まず、想いにとどく」をコンセプトにCI・人財育成ポリシーを策定
- 多様な人財の価値観・考え方を活かした組織づくり

キャリアのステージに応じた階層別の教育体系の刷新・充実

- 技術研修（eラーニングも整備）
- 次世代リーダー育成プログラム
- マネジメント研修

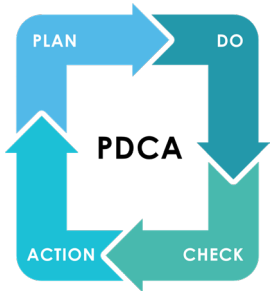
仕事のやりがい・働きやすさの向上に向けた環境づくり

- 創造性・主体性を持った人財を養う「イノベーションプロジェクト活動提案制度」

進捗　社内各部門の体制強化が進んだことを受け、現在は、人財育成に重点を置き取組みを推進

人的資本強化方針

① コーポレート・アイデンティティ（CI）活動の推進
② 理念浸透型の人事制度・人財育成ポリシーの整備
③ 人財の多様性の確保、ダイバーシティマネジメント
④ キャリアのステージに応じた教育制度の充実
⑤ 仕事のやりがい、働きやすさの向上などのための環境づくり



施策強化

お客様の想いに届き、社会に貢献する商品やサービスを提供する

© 2026 Yushin Company

戦略②　グローバル販売力の強化

欧州を中心とした
グローバル市場での
シェアアップ

グローバル規格対応
（欧州安全基準の完全準拠商品の拡充）

世界各国のトップクラス
企業をターゲット
とした活動

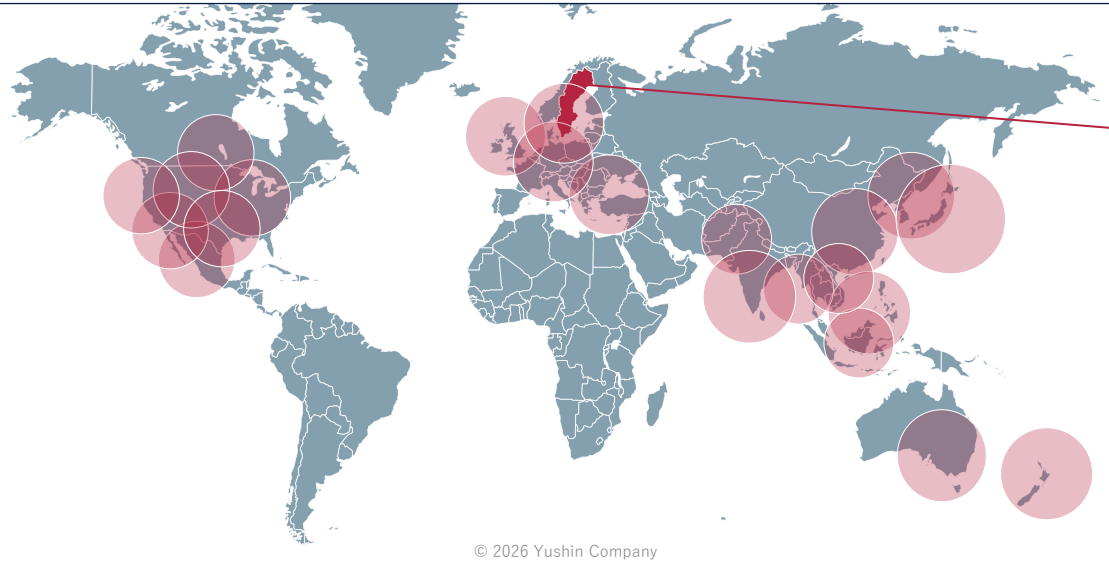
お客様が目指される
スマートファクトリー
構築への対応

進捗

WEMO社のグループ会社化により、欧州における販売力を強化
今後は、グループ間連携を一層推進



Fakuma2026（2026年10月ドイツ）

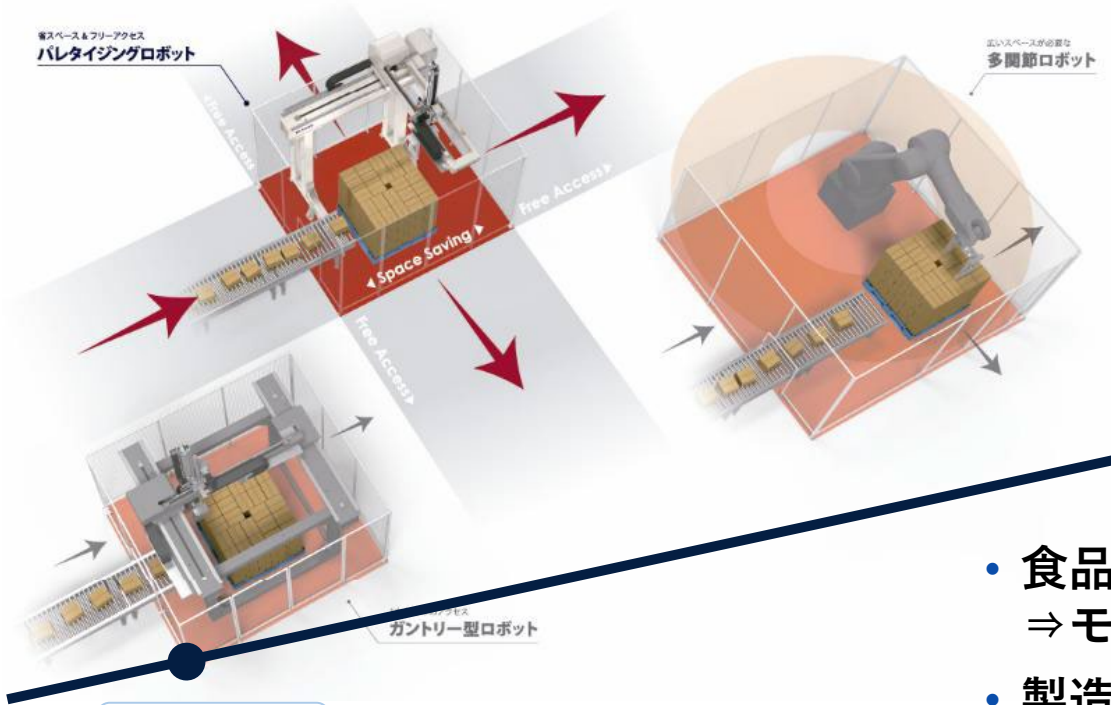




WEMO AUTOMATION AB

© 2026 Yushin Company

戦略③④　商品力の強化/新規事業の開拓



2020年6月

パレタイジングロボット発売

低全高タイプ発売

2023年8月



2024年4月

2パレット仕様追加

- 食品業界など**新しいユーザー層**の獲得
  ⇒モビリティやエレクトロニクス等の業界にもユーザーを広げる
- 製造業・物流現場の**人手不足**に貢献
- **直交型ロボットのメリットを最大限に活かした特長**により、
  お客様の幅広いニーズにお応えする
- 継続的な機能拡充による**商品価値の向上**

進捗	パレタイジングロボット発売以来、堅調に推移

© 2026 Yushin Company

キャッシュアロケーションの考え方

01.

社会課題の解決に貢献できる
商品・サービス創出のための
長期視点での戦略投資は継続的に実施

02.

安定的に保守サービスを
提供するため強固な
財務基盤を維持

03.

ご期待に沿える株主還元の
取組みを推進

キャッシュ 創出

- 営業CF
- 手元資金

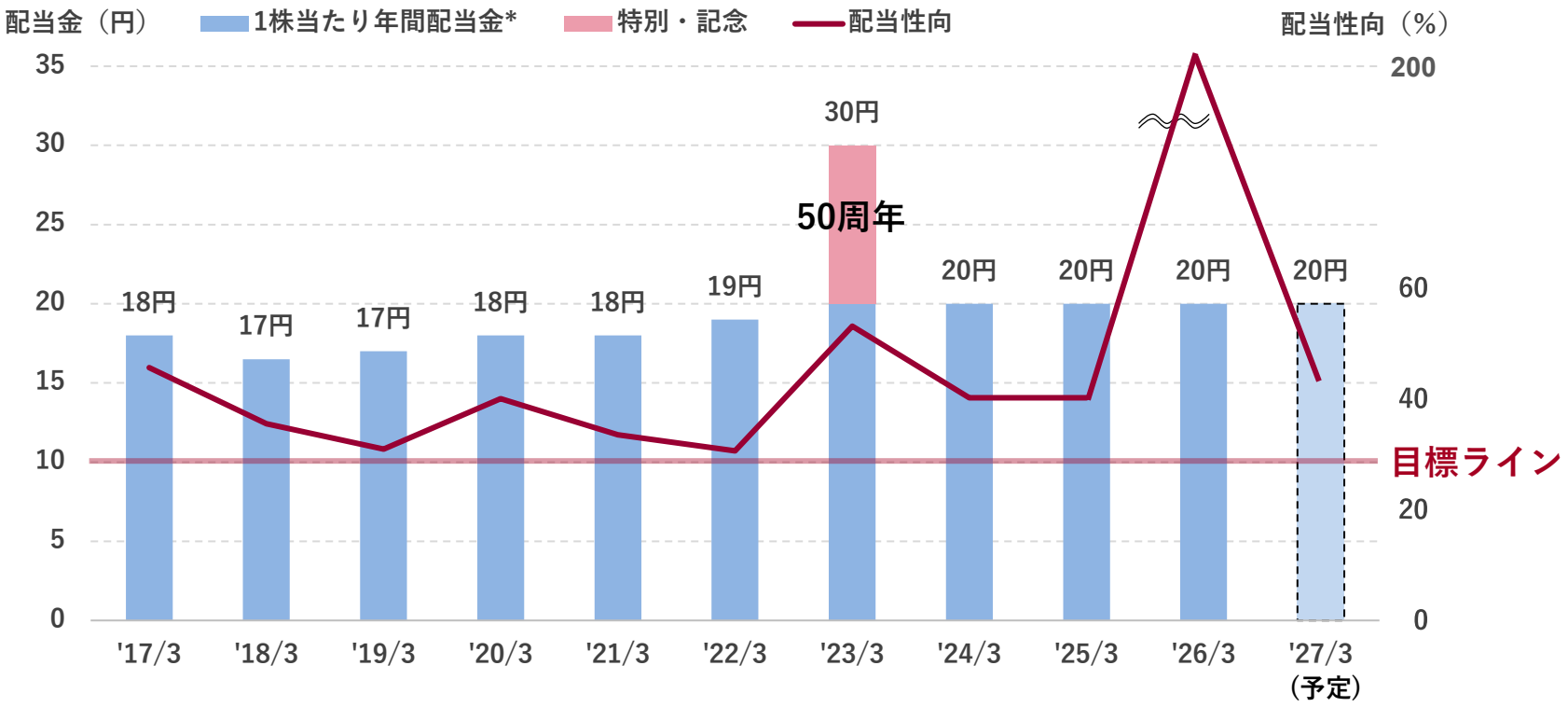
キャッシュ 活用

戦略投資	人的資本投資・研究開発投資
	次世代成長投資・設備投資
事業運営資金	増販による運転資金の増加 不測の事態への備え
株主還元	配当（配当性向30%以上） 自己株式の取得

© 2026 Yushin Company

株主還元策

- 世界経済の先行きが不透明ではあるものの、成長戦略と株主還元を総合的に勘案し、年間配当予想は前年同額の20円に決定
- 資本効率の向上および株主還元の充実のための施策として、10億円を上限に自己株式取得の実施を決定



配当方針

1 安定的かつ継続的な株主還元を実現するため、配当性向は30%以上を目標

2 連結業績の向上により、普通配当水準の引き上げを図る

* 年間配当金は、2018年4月1日付の株式分割(1:2)後ベースに換算したものです。

© 2026 Yushin Company

参考資料

（参考）会社概要

社　　名	YUSHIN株式会社
代　表　者	代表取締役社長　小谷 高代
設　　立	1973年10月
資　本　金	19億8,566万円
社　員　数	806人（2026年9月末現在、連結）
連結売上高	231億円（2026年3月期）
事業内容	産業用直交型ロボットを中心に 工場自動化に関連する装置・システムの開発、製造、販売
上　　場	東証スタンダード市場
証券コード	6482
売買単位	100株



© 2026 Yushin Company

（参考）ＹＵＳＨＩＮの強み

技術力

- 高速取出し
- 省エネ
- 提案力

幅広いユーザー層

- 多様な販売先業種
- グローバル展開
- 新業界への進出

人的資本経営

これらの強みを生み出す
源泉となる
人的資本の強化に
注力しています

信用

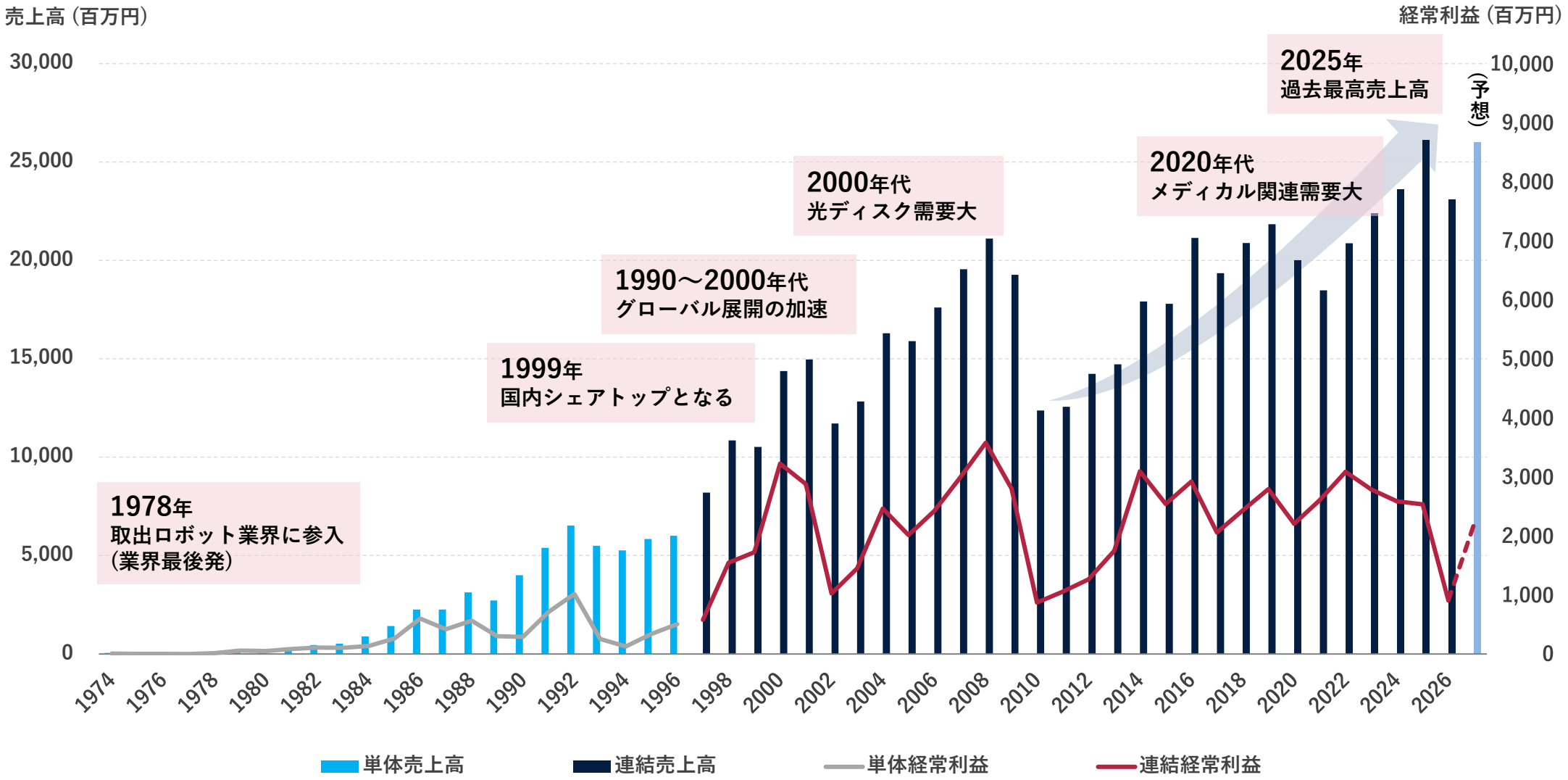
- 業界トップシェア
- 労働安全
- サポート力

財務体質

- 強固なバランスシート
- 高い自己資本比率

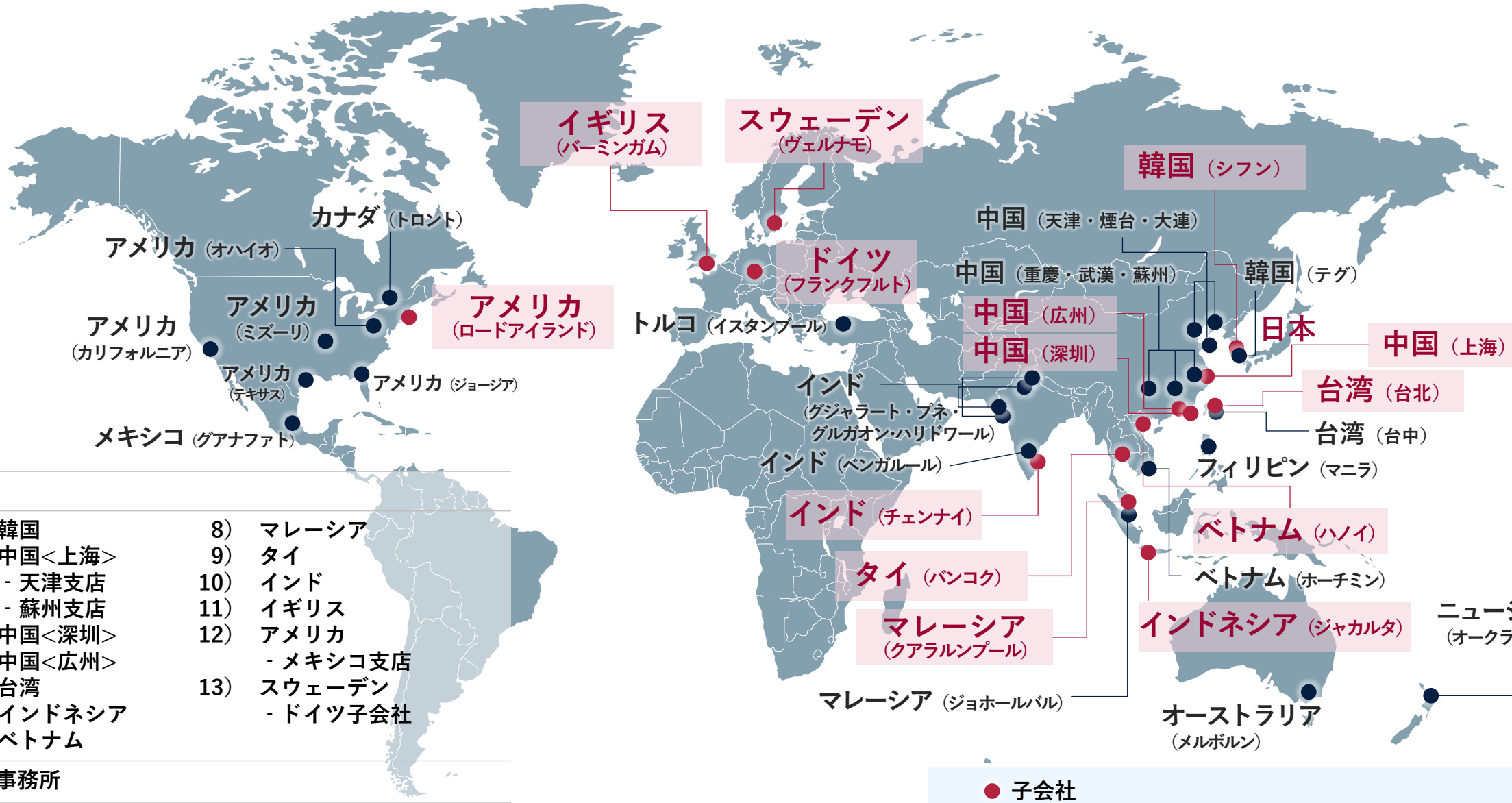
© 2026 Yushin Company

（参考）業績推移



© 2026 Yushin Company

（参考）グローバルネットワーク



子会社

1） 韓国
2） 中国<上海>
- 天津支店
- 蘇州支店
3） 中国<深圳>
4） 中国<広州>
5） 台湾
6） インドネシア
7） ベトナム
8） マレーシア
9） タイ
10） インド
11） イギリス
12） アメリカ
- メキシコ支店
13） スウェーデン
- ドイツ子会社

駐在員事務所

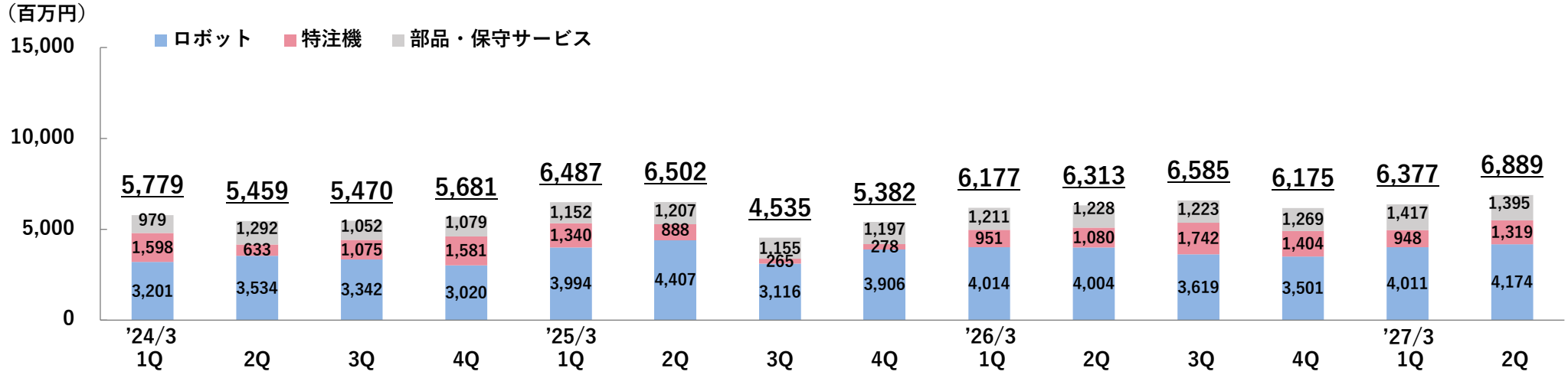
1） フィリピン

© 2026 Yushin Company

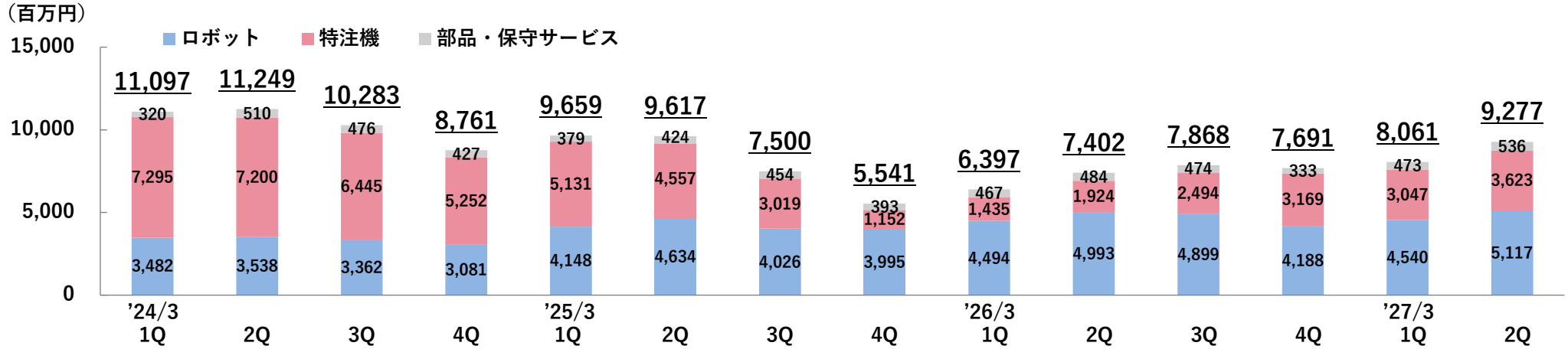
（参考）受注高・受注残高推移（四半期毎）

- 受注高は概ね堅調に推移、‘27年3月期1Q以降はロボットにおいて増加傾向
- 受注残高は‘25年3月期末を底に回復へ転じ、特注機の受注積み上がりを背景に、‘27年3月期2Q末には前年を上回る

受注高



受注残高



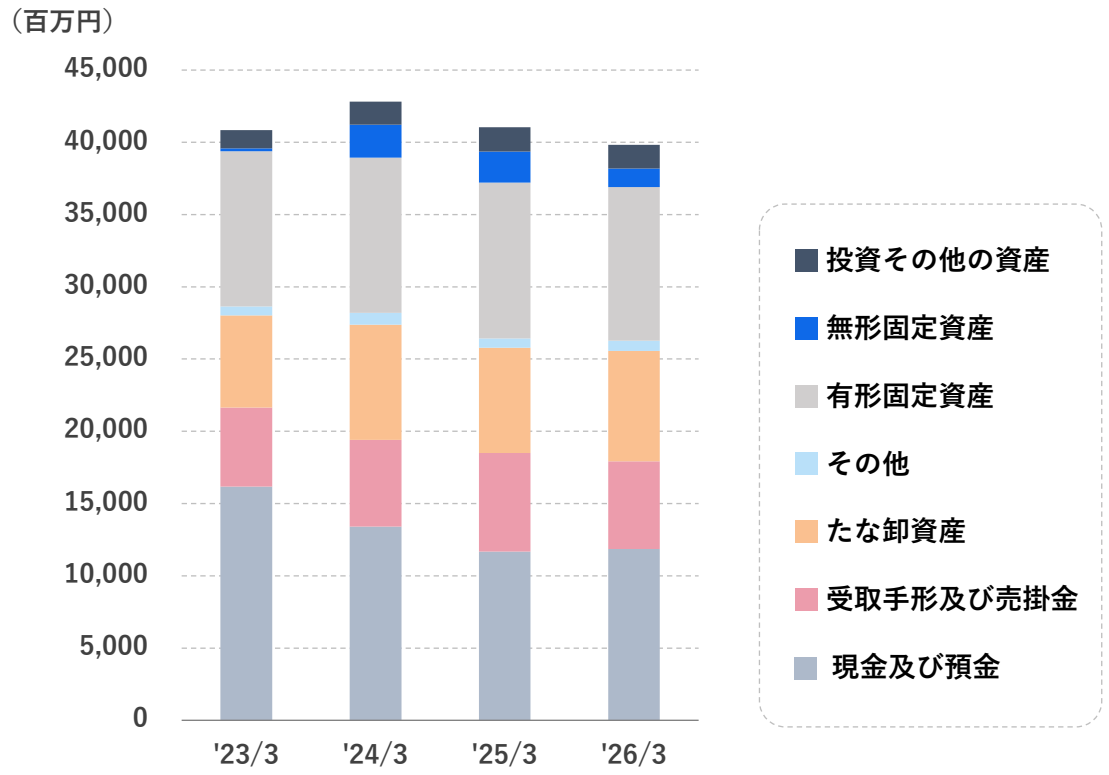
© 2026 Yushin Company

（参考）貸借対照表

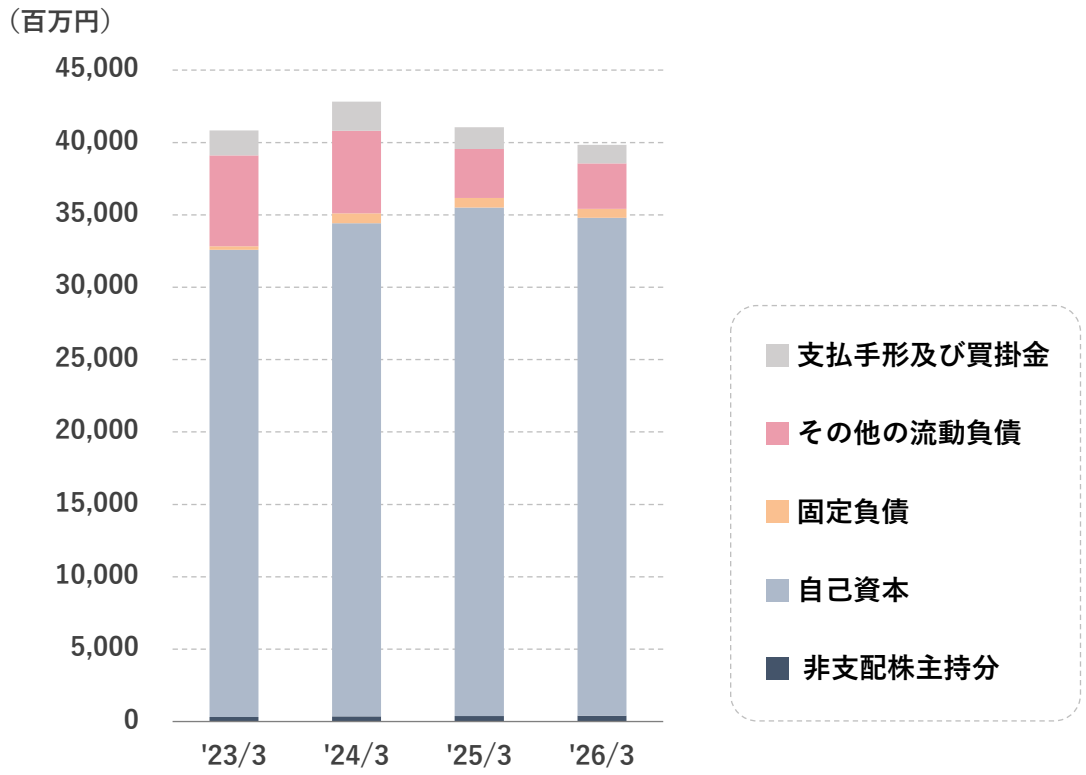
中長期的な成長を見据えた積極的な投資や株主還元などにより、現金及び預金は前期と比較して同程度で推移

高い自己資本比率、有利子負債ゼロにより財務基盤の安定性を維持

資　産



負債・純資産

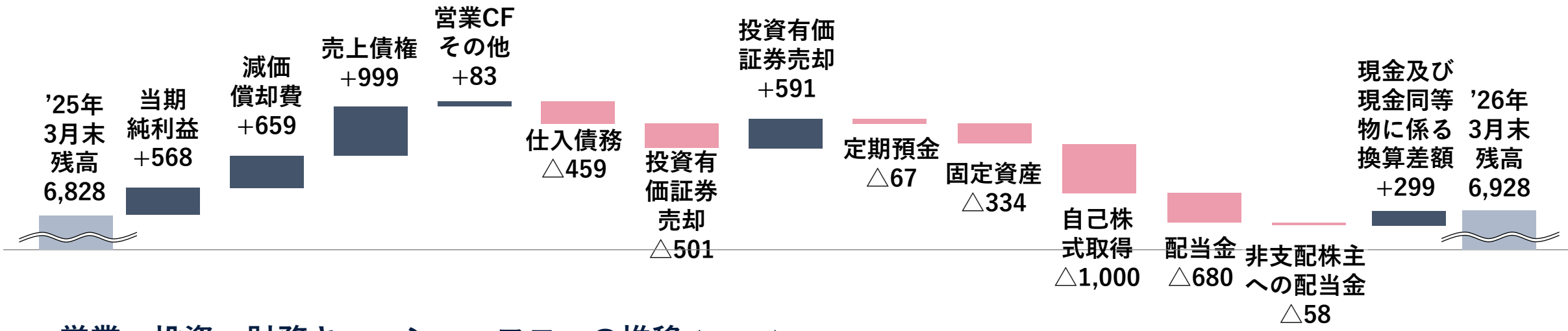


© 2026 Yushin Company

（参考）キャッシュ・フロー(CF)分析・推移

主なキャッシュ・フロー分析 (百万円)

営業CF	投資CF	財務CF
1,350	189	△1,739



営業、投資、財務キャッシュ・フローの推移 (百万円)

	'21/3	'22/3	'23/3	'24/3	'25/3	'26/3
営業CF	3,487	2,083	4,605	119	△377	1,350
投資CF	△1,987	△1,341	△299	△2,519	△129	189
財務CF	△561	△763	△695	△1,070	△720	△1,739

© 2026 Yushin Company

（参考）商品ラインアップ（1）

ロボット

横走行タイプ

FRAシリーズ



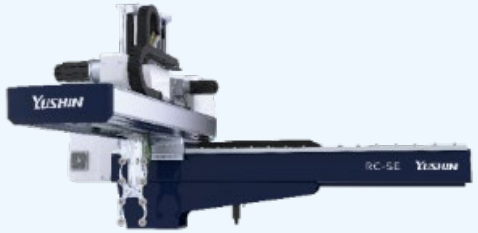
HSAシリーズ



HSTシリーズ



RC-SEシリーズ



YDシリーズ



SDシリーズ



スイングタイプ

HOP
シリーズ



サイドエントリータイプ

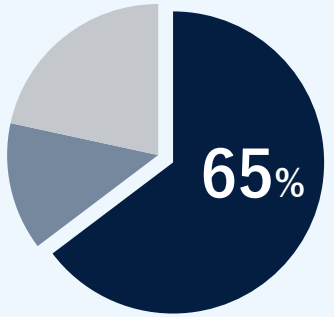
TSXAシリーズ



パレタイジング
ロボット



売上構成比



14,947百万円
（2026年3月期）

© 2026 Yushin Company

（参考）商品ラインアップ（2）

特注機

大容量タイプストッカ



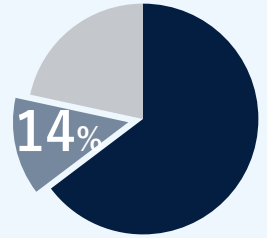
ゲートカットストックシステム



インサートワーク供給



売上構成比



3,161百万円
（2026年3月期）

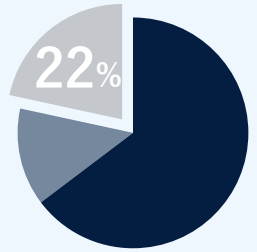
部品･保守サービス







売上構成比



4,992百万円
（2026年3月期）

© 2026 Yushin Company

（参考）取出ロボットの性能と機能

性能



HOP

スイングタイプ
＜エア駆動＞



SD

アジア向け
省エネ



YD

汎用
省エネ



RC-SE

高速
高剛性



HST



HSA
TSXA

ハイサイクル
シリーズ



FRA

ハイエンド

横走行タイプ
＜全軸サーボ駆動＞

機能

© 2026 Yushin Company

（参考）マテリアリティ

持続可能な社会の実現と中長期的な企業価値の向上に向けて、5つのマテリアリティ(重要課題)を特定しています。

事業を通じた社会課題の解決



1. 労働安全性の強化
2. お客様工場の生産性向上
3. 気候変動への対応

＜主な施策＞

- 安全性能を高めた商品の開発
- 労働安全に関するスクール実施
- 高速、高精度なロボットの開発、販売
- 環境性能を高めた商品の開発

お客様と共に目指すSDGs項目



YUSHINグループの持続的成長に向けた経営基盤の強化



4. 人的資本の強化
5. コーポレート・ガバナンスの強化

- イノベーションが起こりやすい風土、環境づくり
- それぞれのライフステージに対応した継続的に働ける制度づくり
- コーポレート・アイデンティティ(CI)の浸透
- 取締役会の機能強化
- 指名・報酬委員会の実効性維持
- 取締役会の実効性評価

© 2026 Yushin Company

（参考）サステナビリティ - TCFD提言に基づく情報開示

TCFD提言に基づく情報開示のアップデート

- 気候関連のリスクおよび機会に係る組織の**ガバナンス**に関する体制・役割の開示を充実化
- 2つのシナリオ(詳細①)に基づく分析・検討を踏まえ、**影響度**に関する開示を追加(詳細②)
- 気候関連の**リスク管理プロセス**の説明と**全社リスクマネジメントへの統合**に関する開示を充実化

【詳細①】当社が設定した2つのシナリオ

1. 社会全体が脱炭素化へ大きく転換し、温度上昇の抑制に成功する「1.5～2℃シナリオ」
2. 経済発展を優先し、温暖化とその影響が継続して悪化する「4℃シナリオ」

【詳細②】重要なリスク・機会の特定と対応策に「影響度に関する開示」(下図赤枠)を追加

区分		具体的リスク	事業への影響	発現時期[※2] 短	中	長	1.5/2℃ 影響度[※3]	4℃ 影響度[※3]	リスクに対するYUSHINの対応
移行リスク	政策・法規制	各国政府による炭素税などの導入・増税	・原材料調達コストの増加	●	●	●	小	小	・持続可能な社会の実現のためにサプライチェーン全体で負担する経費と捉える
		温室効果ガス排出規制やエネルギー効率改善目標などの政策的介入	・再生可能エネルギー調達コストの増加 ・ガソリン車から環境配慮型自動車への社有車転換コスト増加	●	●	●	中	小	
	技術	低炭素技術導入ロボットの開発コスト増加	・投資コストの増加	●	●		中	中	・将来への成長投資と捉える
	市場	低炭素技術普及に伴う関連資材不足の発生	・調達価格高騰によるコスト増加 ・入手困難による生産影響		●	●	小	小	・調達先の開拓により複数社からの購買を実施する
		お客様の環境ポリシーの厳格化	・グループ内の環境対応が遅れることに伴う販売機会の喪失	●	●		中	中	・省エネ機能の向上などの環境対応商品の開発を積極的に行う
	評判	ステークホルダーの行動変化	・環境配慮への対応の遅れや環境情報開示の不足に伴う企業評価の低下	●	●		小	小	・気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)への賛同を契機に、情報開示を推し進める
物理リスク	急性	異常気象(台風・洪水・竜巻・大雪など)の発生	・グループ、サプライチェーンへの直接的な被害の発生、特に生産を担う本社工場およびテクニカルセンターの稼働停止や一部機能不全に伴う売上減少・費用増加	●	●	●	小	中	・事業継続計画(BCP)の実行 ・台風・洪水への対策を検討する
	慢性	平均気温の上昇	・工場勤務者およびサービス従事者の快適な労働環境維持のため、電力消費量増加や熱中症対策費用増加	●	●	●	小	小	・従業員の作業環境整備を優先させる(コストは吸収可能な範囲であり、影響度は小さい)
		海面上昇	・水災リスクが許容値を超えた生産拠点の移転の必要性			●	小	小	・継続的なリスク把握を行う

区分		具体的機会	事業への影響	発現時期[※2] 短	中	長	1.5/2℃ 影響度[※3]	4℃ 影響度[※3]
機会	資源の効率性	エネルギー効率の良い建物の活用	・快適な温度管理、CO_2濃度管理などを推し進め、従業員の働く環境整備を行うなど、本社工場活用による従業員満足度の向上 ・安全レベルの向上に伴うコストダウン	●	●	●	小	小
		再生利用の促進	・再利用機会の増進に努めることによるコスト削減		●	●	小	小
		効率的な輸送の実現	・商品の軽量化、輸送材料の低減を推し進め、効率的な輸送を追求することによるコスト削減	●	●	●	小	小
		輸送機会の削減	・現地生産対応による海上輸送コストの削減		●	●	小	小
	エネルギー源	低炭素排出エネルギー源の利用	・再生可能エネルギー利用促進による、将来の化石燃料の価格増大に対する影響の軽減、温室効果ガス排出規制に対する影響の軽減	●	●	●	小	小
	製品/サービス	省エネ・低炭素商品の開発・販売拡大	・環境配慮型ロボットの需要増加による増収 ・ECO吸着®、Smart ECO吸着(特許取得済)、エコロジーモードなどの商品価値向上による増収 ・環境負荷低減のために商品寿命が長いロボットが求められることに伴うサービス収益の増加	●	●	●	大	大
		平均気温上昇への適応	・労働者にとって作業環境が過酷となることに伴う自動化ニーズの増加 ・過酷な環境下でも稼働し続ける商品開発要求		●	●	小	中
	市場	熱中症対策品や医療関係品などの市場の需要増加に伴う売上増加	・関連商品の設備投資拡大によるYUSHIN商品への需要拡大	●	●	●	中	大
		ガソリン車から環境配慮型自動車への世界的移行	・軽量化に伴うプラスチック関連部品生産の増加、部品生産企業の新規参入によるYUSHIN商品への需要拡大	●	●		中	中
		気候変動による顧客の生産拠点移転	・設備投資拡大に伴うYUSHIN商品への需要拡大			●	中	中
	強靭性(レジリエンス)	納期厳守のための、複数の組立て協力先、複数の部品調達先を確立	・商品の需要増加への対応力向上	●	●	●	小	小

▶TCFD提言に基づく情報開示の詳細は YUSHINレポート2026 P29-30 をご覧ください

© 2026 Yushin Company

（参考）YUSHINのロボットが扱う製品群

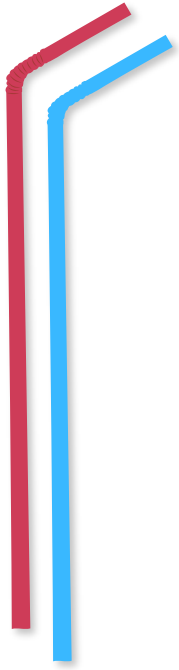
○








×

© 2026 Yushin Company

（参考）過去10年間の株価推移（月足）



© 2026 Yushin Company

（参考）「YUSHINレポート2026」発行

当社グループの社会的・経済的価値創造の仕組みを示すとともに、マテリアリティへの対応、
コーポレート・ガバナンスの実践など、サステナビリティに関する情報を体系的に説明

当社が目指す持続的成長の姿を、ステークホルダーの皆様にご理解いただく



主なコンテンツ

- トップメッセージ
- 新任社外取締役×代表取締役　対談
  「YUSHINのガバナンス体制と社外取締役の使命、成長の実現に向けて」
- 中長期経営目標　戦略④ 新規事業の開拓
  パレタイジングロボット
- 工場の自動化に貢献するYUSHINロボット

▶YUSHINレポート(統合報告書)　https://ir.yushincompany.jp/ja/library/annual.html

© 2026 Yushin Company

YUSHIN

問い合わせ先：経営企画部

(TEL) 075-933-9555 (E-mail) IRinfo@yushincompany.jp

https://yushincompany.jp

IRサイトでは、説明会情報や各種資料を配信しています。

https://ir.yushincompany.jp/ja/Top.html

こちらからIRサイトにアクセスいただけます。→

注意事項：

本資料には、業績に関する将来予測の記述が含まれております。これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により、実際の業績とは異なる可能性があることにご留意ください。

又、本資料は財務情報、経営情報等の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。

本資料の転載はご遠慮ください。